

BROADBAND GATE

Linux エンジン搭載ブロードバンドルータ

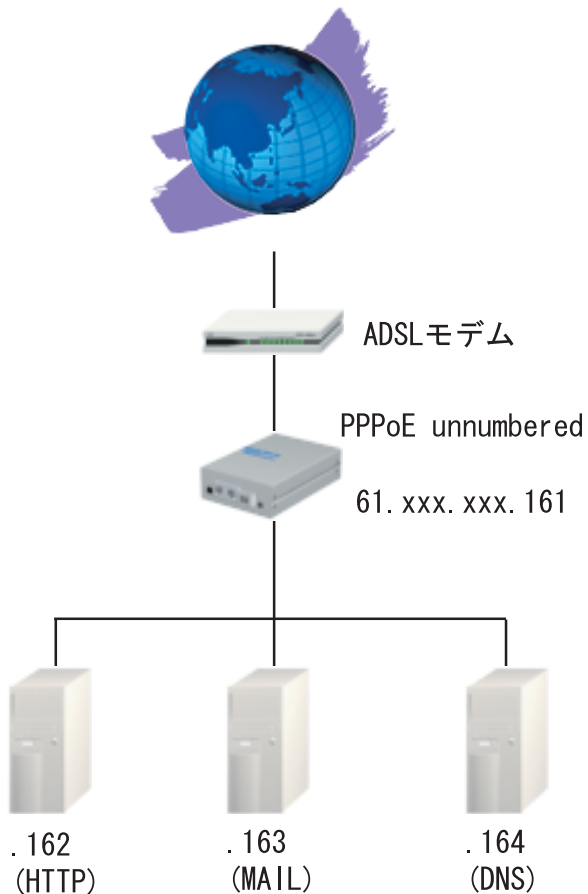
FutureNet XR-300

unnumbered 接続 + DMZ 構築設定ガイド
(TX2 対応版)

PPPoE による unnumbered 接続 + DMZ 構築

PPPoE を用いた unnumbered 接続を行なってグローバルアドレスを固定的に 8 個または 16 個を割り当てられる、LAN 型接続の設定例です。LAN 側もグローバル IP アドレスを用いて運用します。

構成図(例)



ISP から提供された情報(例)

- ・ ユーザー ID
user@unnumbered
- ・ パスワード
password
- ・ 提供された IP アドレス群
61.xxx.xxx.160 ~ 61.xxx.xxx.167
(29 ビットマスク)

ネットワーク構成(例)

- ・ XR-300 に設定する IP アドレス
61.xxx.xxx.161
- ・ 各サーバの IP アドレス
HTTP サーバ : 61.xxx.xxx.162
MAIL サーバ : 61.xxx.xxx.163
FTP サーバ : 61.xxx.xxx.164

unnumbered 接続の設定

STEP 0 設定画面を開く

- 1 Web 設定画面にログインします。
- 2 「PPP/PPPoE 設定」をクリックして、設定を開始します。

- ISP アカウントの設定
- unnumbered 用 IP アドレスの設定
- PPPoE 接続の設定
- PPPoE の接続 / 切断

これらの設定を行ないます。

STEP 1 ISP アカウント設定をおこなう

XR-300 の設定画面にログインし、「PPP/PPPoE 設定」->「接続先設定」(1 ~ 5 のいずれか)をクリックします。そして、設定画面で以下のように入力します(ここでは「接続先設定 1」での設定例とします)。

プロバイダ名	<input type="text"/>
ユーザID	<input type="text" value="user@unnumbered"/>
パスワード	<input type="text" value="password"/>
DNSサーバ	<input type="radio"/> 割り当てられたDNSを使わない <input checked="" type="radio"/> プロバイダから自動割り当て <input type="radio"/> 手動で設定 プライマリ <input type="text"/> セカンダリ <input type="text"/>
LCPキープアライブ	チェック間隔 <input type="text" value="30"/> 秒 <small>0秒確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります</small>
Pingによる接続確認	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する 使用するホスト <input type="text"/> <small>発行間隔は30秒固定、空欄の時はPPP-Gatewayに発行します</small>
UnNumbered-PPP回線使用時に設定できません	
IPアドレス	<input type="text" value="61.xxx.xxx.161"/> <small>回線接続時に割り付けるグローバルIPアドレスです</small>
PPPoE回線使用時に設定して下さい	
MSS設定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効(奨励) MSS値 <input type="text"/> Byte <small>(有効時にMSS値が0の場合は、MSS値を自動設定(Clamp MSS to MTU)します。最大値は1452。ADSLで接続中に変更したときは、セッションを切断後に再接続する必要があります。)</small>

- プロバイダ名 任意で名前を付けてください。
 ユーザー名 user@unnumbered
 パスワード password
 DNSサーバ 「プロバイダから自動割り当て」を選択します。
 IPアドレス 61.xxx.xxx.161
 LCP キープアライブ 任意で設定します。
 pingによる接続確認 任意で設定します。
 通常は「無効」にします。
 MSS 設定 通常は「有効」を選択し、「MSS値」は空欄にします。

入力が終わりましたら「設定」をクリックして、PPPoE 接続先設定は完了です。

PPPoE 接続と Ethernet ポートの設定

STEP 2 PPPoE の接続設定

「PPP/PPPoE 設定」の「接続設定」をクリックして、PPPoE 接続のための設定をおこないます。以下の項目について設定します。

回線状態	回線は接続されていません
接続先の選択	<input checked="" type="radio"/> 接続先1 <input type="radio"/> 接続先2 <input type="radio"/> 接続先3 <input type="radio"/> 接続先4 <input type="radio"/> 接続先5
接続ポート	<input type="radio"/> RS232C <input type="radio"/> Ether0 <input checked="" type="radio"/> Ether1
接続形態	<input type="radio"/> 手動接続 <input checked="" type="radio"/> 常時接続
IPマスカレード	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
ステートフルパケットインスペクション	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
デフォルトルートの設定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
IPsecの自動起動	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
接続IP変更お知らせメール	<input checked="" type="radio"/> 送信しない <input type="radio"/> 送信する
お知らせメール宛先	<input type="text"/>
お知らせメールのFromアドレス	<input type="text" value="xr"/>

接続先の選択 「接続先1」を選択します。

接続ポート 「Ether1」を選択します。

接続形態 任意で選択してください。

IPマスカレード 「無効」を選択します。

ステートフルパケットインスペクション
「無効」を選択します。

デフォルトルートの設定 「有効」を選択します。

IPsecの自動起動 「無効」を選択します。

接続 IP 変更お知らせメール

「送信しない」を選択します。

上記設定後に「設定の保存」をクリックして PPPoE 接続設定は完了です。

STEP 3 Ethernet ポートの設定

引き続き Ethernet ポートの設定をおこないます。「インターフェース設定」画面で設定します。

[Ether0 ポートについて]

「固定アドレスで使用」を選択し、以下のように入力します。

「IPアドレス」 **61.xxx.xxx.161**

「ネットマスク」 **255.255.255.248**

「MTU」 通常は "1500" のままでかまいません。

IPマスカレード **チェックを入れません。**

「ステートフルパケットインスペクション」

チェックを入れません。

「ポートの通信モード」 「自動」を選択します。

Ether 0ポート

- 固定アドレスで使用
- IPアドレス
- ネットマスク
- MTU
- DHCPサーバから取得
- ホスト名
- MACアドレス
- IPマスカレード
(このポートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います)
- ステートフルパケットインスペクション
- ポートの通信モード
- 自動 full-100M half-100M full-10M half-10M

[Ether1 ポートについて]

PPPoE 回線を Ether1 ポートに接続していますが、XR-300 の内部システム上では Ethernet インタフェースとは別の論理インタフェースを生成して PPPoE 接続しています。そのため、Ether1 ポートにはダミーのプライベートアドレスを設定しておきます。基本的には初期設定のままで構いません。

入力後に「設定」をクリックして、Ethernet ポートの設定は完了です。

PPPoE の接続と各ホスト / サーバの設定

STEP 4 PPPoE 接続の開始

「PPP/PPPoE」->「接続設定」を開いて、画面最下部にある「接続」ボタンをクリックして、PPPoE 接続を開始します。

STEP 5 各ホスト / サーバの設定

PPPoE で接続後は、各ホスト / サーバの IP アドレス設定をおこないます。

この例では、DMZ に設置したサーバには以下のアドレスを設定します。

- ・ HTTP サーバに 61.xxx.xxx.162
- ・ POP、SMTP サーバに 61.xxx.xxx.163
- ・ FTP サーバに 61.xxx.xxx.164

DNS アドレスはルータアドレス「61.xxx.xxx.161」、もしくは、プロバイダから指定されたものをそれぞれ設定します。

また、デフォルトゲートウェイ設定はそれぞれ 61.xxx.xxx.161 にしてください。

これですべての設定は完了です。

unnumbered 接続 + DMZ 構築の注意点

unnumbered の設定をしても、DMZ からインターネットへアクセスできません。

unnumbered 接続の場合は、DMZ に設置したホスト / サーバにはグローバル IP アドレスを設定しなければなりません。

ISP から割り当てられたグローバルアドレスがコンピューターに正しく割り当てられているかを確認してください。

unnumbered の設定をしたが、外部からアクセスできません。

「ステートフルパケットインスペクション」機能が有効になっている場合は、外部からは一切アクセスできません。必ず **STEP 5** のようにして、サーバへのアクセスを通過させるパケットフィルタを設定してください。

また、「ステートフルパケットインスペクション」機能を無効にしても運用は可能です。ステートフルパケットインスペクション機能を無効にする場合は、より強固にパケットフィルタの設定をおこなってください。

バーチャルサーバ設定は必要ですか？

unnumbered 接続の場合は、バーチャルサーバ設定は必要ありません。サーバにもグローバルアドレスを割り当て、外部から直接アクセスさせることが可能です。

XR-300/TX2 unnumbered 接続 + DMZ 構築設定ガイド

2002 年 12 月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

2001,2002 CENTURYSYSTEMS, INC. All rights reserved.
